

動物の診察室から

○ 83 ○

8月の初めに、おしっこに血が混じるとのことから、片方の乳腺をすべて摘出し、1カ月ほどした

ら反対の乳腺をすべて摘出するのですが、膀胱がんが発見されたのでまずはその治療が始まりました。
ももちゃんのがんは膀胱の出口にあるため、手術が必要な手術適応ではありません。ももちゃんのご家族は、血尿の原因

四つの腫瘍

痛みを取って頑張ろう

した。その子の名前は「ももちゃん」。11歳になる女の子です。
早速、血尿の原因を調べる検査を行いました。エコー検査で膀胱内に腫瘍があることがわかりました。尿道カテーテルをいれて、その腫瘍がある部位の細胞を吸引し病理検査に出すと、それは膀胱の扁平上皮がん、悪性腫瘍でした。

ももちゃんは、1カ月ほど前に乳腺にしこりができたため、部分的な切除手術を受けていました。しかし、その後乳腺のあちこちにしこりができどんどん大きくなって



が膀胱がんであることを知りショックを受けましたが、手術をしなくても、消炎剤の「ピロキシカム」の投与で1年以上もコントロールすることができていることを理解されました。
一方で、大きくなっていく乳腺のしこりはそのままでは破れてしまうことがあるため、その摘出手術を希望されました。そして、8月のおわりに手術後、ご家族と今後の方針を話し合いました。高齢であること、外科的に取ることができない腫瘍が二つあること、現在痛みはないことから、治療はピロキシカムと抗生剤だけの投与をするようになりました。

手術を行ったのです。当日、ももちゃんには全身麻酔がかけられ、手術の前に胸部、腹部のCT検査が行われました。その結果、ももちゃんの肝臓には小さいですが腫瘍があることがわかりました。さらに、乳がんが多い肺への転移はなかったものの、左右の肺に挟まれた前縦隔に、外科的に対応できないジワリと
.....
退院のとき、にっこり笑うももちゃん
手術後、ご家族と今後の方針を話し合いました。高齢であること、外科的に取ることができない腫瘍が二つあること、現在痛みはないことから、治療はピロキシカムと抗生剤だけの投与をするようになりました。
四つの腫瘍を持つももちゃん、お母さまにとってはかわいかわいわが子です。食事も好きなものをあげて、いつも一緒にいてあげましょう。そして、痛みが出てきたら痛みを取ってあげましょうね。ももちゃんがばってね!



草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝第2・4木曜掲載＝